



14th WORLD UNIVERSITY ROWING CHAMPIONSHIPS

POZNAN 2 - 4 SEPT 2016 参加報告

国際審判員 塚田 秀樹 (京都ボート協会)

FISU (国際大学スポーツ連盟) 主催 第 14 回世界大学選手権大会がポーランド、ポズナン市で 2016 年 9 月 2 日 (金) ~ 4 日 (日) の 3 日間の競技日程で開催されました。審判員として参加したことを報告いたします。なお、当地では今年度ワールドカップⅢが開催され日本から松田審判員が参加され、既にレポートが出されていますので、施設など重複するところは松田氏のレポートを参照していただきたいと思います。

現地には 8 月 31 日 (水) 午後 3 時前に空港に着きました。OC の迎えにより他の審判員 4 名 (計 5 名) とともに車で 40 分程度の会場に隣接している **Camping Malta** という宿舎に着きました。この日の夕方に第 1 回目の審判ミーティングがあると聞き、この時間に着くように来たのですが実際は翌 1 日 (木) の 11 時が最初のミーティングでした。夕食会場に行くついでに 8 名くらいの審判員が食事をしながら談笑していました。部屋は 2 人部屋でしたが相方の審判員はスイスから車で来て深夜 12 時ころに着きました。12 時間程度 (距離は 1200 km) かかったと言っていました。

今大会の審判員は以下の通りです。

Jury President	Przemyslaw Knigawka	POL	1470
Jury Member	Nicola Dabic	SRB	1593
	Martine Dimouawa	CMR	1520
	Jean-Pierre Follet	BEL	1245
	Morten Juel Hansen	DEN	1561
	Jan Havlicek	CZE	1662
	Ulrich Kaeswurm	GER	1218
	Mon Mon Khaing	MYA	1655
	Anna Widun	POL	1619
	Joseph(Joe) Manion	USA	1639
	Philippe Marillaud	FRA	1673
	Gregory Melbourne	AUS	1490
	Lucia Ramirez	ARG	1678
	Humphrey Spoor	SUI	1603
	Wolha Tarasava	BLR	1667
	Hideki Tsukada	JPN	1628
	Laurens Van Campen	NED	1726
	Geeske Annelies Van Rossum	CAN	1742
	Mike Williams	GBR	1310

以上 19 名の審判団です。また、FISA 審判委員会の Jerome Mouly 審判委員 (FRA) も参加されました。

今大会のコース、食事場所、宿泊場所はすべて徒歩で移動できる範囲内に集まっています。

Accreditation での手続きはなく、事前に E メールで送った顔写真を用いて ID カードと審判員の一覧表をプリントして事前に配っていただきました。

先の World Cup Ⅲでは、宿舎まではバスで通い、昼食はコースに設営されたカフェテリアでとっておられたとのことです。今回の昼食は毎回ホテルのレストランでとっていました。

9 月 1 日 (木) 競技会前日

11 時から審判団ミーティングがありました。審判長が写真入りのプリントを配り皆の名前を紹介した後、一人ひとり自己紹介をしました。その後 venue tour に出て各施設・設備をチェックして回りました。

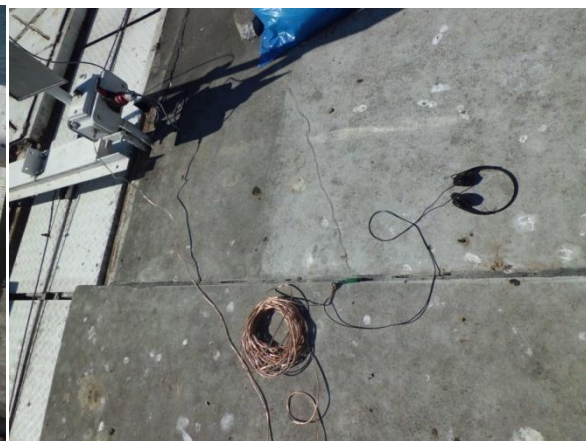
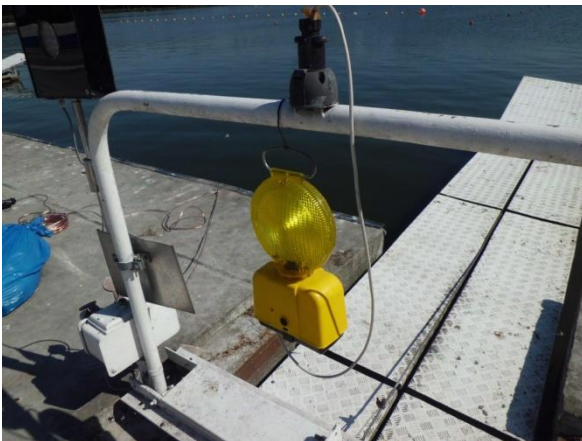
これはかなり時間がかかり、昼食が3時ころになりました。

16:00 からチームマネージャーミーティングがありましたが venue tour が長引いたため審判員は皆参加せず休んでいました。この日の夕食は間隔が短くなったため食べませんでした。

19:00、 20 時からの Opening Ceremony 会場へバスが出ました。Castle POZNAN が会場です。



World Cup IIIの時と少し違います。両端の0と7レーンにはシグナルが設置されていませんでした。Yellow /Red Mark は使われず、警告の時はこの黄色の回転灯が点滅します。(右写真) 3レーンのシグナルのみ裏面に穴が開いており、スターターが赤ランプ、緑ランプが点灯していることを確認できるようになっております。



警告を受けた時にこれが点滅します。(右写真) ポンツーンの写真は WCIII レポートにあります。ボートホルダーは1名でこのヘッドホンからアライナーの指示を聞き、右手で前後への移動をさせるレバーを回します。(下左、開会式会場です。下右、開会式の様子です。約1時間の式でした。)



式典の後、別室でケーキと飲物が用意され参加者での懇親会が1時間弱ありました。その後審判団と役員はポズナンの広場を散策し、飲みながらの談笑の時を持ちました。



(左) 審判団と各役員



(右) 夜の広場、華やかです。



写真(左) 今回の審判団です。(右) はミーティングで説明されたレストラン会場での食事時間です。最終日(日)は10:24(AM最終レース)から12:30(PM最初のレース)が休憩になるため昼食時間が早いです。また最終日の夕食は18時ころから22時ころまで食事と飲みながらの談笑をしていました。

参加国は、

北・南米 2カ国

オセアニア 2カ国

アジア(中国、台湾) 2カ国

アフリカ 1カ国

欧州 19カ国

計26カ国です。

実施種目は、

1×(M、W) 13、11クルー

2×(M、W) 12、9クルー

L1×(M、W) 17、10クルー

L2×(M、W) 11、10クルー

2-(M、W) 13、5クルー

4-(M、W) 8、9クルー

L4-(Mのみ) 6クルー

8+(Mのみ) 8クルー(※coxは性別不問、女子でも55kg)

4×(男女2名ずつの混成) 3クルー

以上です。4×の混成というのが珍しいです。

レース間隔は初日(予選)がすべて6分間隔。2日目(敗復と一部セミファイナ)は最初の12レースが7分間隔、後の7レースが8分間隔。最終日は主にファイナルB(午前)が6分間隔、ファイナルA(午後)が14~15分間隔のスケジュールです。

今大会でのUmpiringはZonal umpiringではなく従来のDynamic umpiringで行われました。

2日（金）競技会初日 私の担当部署はAMがJudge at the startです。

NTO2名はアライナーとして艇首揃えをします。アライナーがOKを出せば白ランプを私が点灯させます。



写真が少し小さいですが、この装置に白ランプ（白×旗に相当）ボタン、リセットボタン、false start時に押すボタンが並んでいます。false startボタンにカバーがないのでリセットボタンと間違えて押さないよう気を付けました。スピーカーからはスターターからの声が入ります。「まだそろわないのか！」

また、1回 false startと言われることがありました。

出て

いる直線状の小さいマ

スター

ート」のように言わないこととなっています。

午前のレースの後スターターをした審判から「Good job!」と言われました。仕事をしたという実感はありますが、「日本でもとったことのないfalse startをここでとらせるな!」と思いました。



スタートラインを移すモニターです。（注）このモニターの左に置いてあるBOXの赤いボタンを発艇前に押さないと、スターターの「Go」に相当する緑ランプ点灯と同時にフリーズしませんので気をつけてください。

2日（金）午後はControl Commission In Coming ポンツーン担当です。

ポンツーン（In）は2本あり、Mike氏と1本ずつ担当しました。

主に艇計量対象クルーへの通告と NTO（計量所への誘導）への引き継ぎが役割です。デッドウエイトの確認も重要な任務ですが、今回のレース（8+）では対象クルーがないとの報告を受けました。

レースは予選ですが、艇計量対象クルーは着順に関係なくすでに各レース2クルーずつ決まっており、そのクルーを Resp. control commission 担当審判から聞きました。特に業務は問題なく終わりました。

World Cup IIIのレポートでも報告されていたのですが、緑の大きな四角いかごが用意され、Out ポンツーンでクルーに付けるバウナンバーを入れておき、付け終わったらクルーの靴を入れ、In ポンツーンへ持っていったおくというシステム。これをMike氏がいい案だと言っていました。（写真下左 Out、右 In）





左：チームマネージャーミーティングです。

右：2日（金）夕食後に行われた、BBQパーティーです。

初日のチームマネージャーミーティングでは、クールダウン時に2件接触しそうになるなど危ない事案があった。最終日はペットボトルを捨てるポンツーンを用意するので、ボートホルダーに投げるな、という注意が主催者から。クルー代表からは、ボートの名前は広告と一緒に扱い（表示面積の制限など）を受けるのか？という質問がありました。

3日（土）競技会2日目 この日の部署は Finish Judge です。

判定会場には、PC操作をする係が3名、私の前方に2名の NTO がフィニッシュラインを私とともに見ます。それに Jerome 審判委員、Response finish judge の Mike 氏です。

判定部屋は5階に相当する高さで、正直フィニッシュラインは見にくいです。

この日の第一レースでいきなり僅差の判定です。4レーンと2レーンが競りました。私の判定は4、2の順です。自信を持って42と叫びました。その後すぐ確認のため Jerome 氏が「HIDEKI どうなんだ？」と確認しました、再度「4、2・・・315だ」と答えます。ちなみに NTO は2、4ではないかとメモを見せます。

写真判定の結果を Mike 氏が確認し「そうだ42だ」と言いました。改めて PC 入力係が「42315」でいいな？と聞いてきます。私「yes」と答え。Result シートが出され、Mike 氏がチェックし「Official！」と言って当該レースが完了です。ちなみに0.05秒差です。

この日のレースの艇計量は着順によって決めるため、レース後 Mike 氏が In ポンツーン担当 C.C 審判に1、2、3着を伝えていました。

また、もう1つ僅差のレースがあり私も NTO も間違えてしまいました。その差は0.01秒でした。その画面を見たのですが、バウボールの輪郭がぼやけるくらいまで拡大しないと線が引けないような感じでした。

この場所が高い所にあると言いましたが、主審の白旗に対しては旗を挙げるのではなく、ライトを室内から主審に向かって点灯させます。NTO が「White light」といつて付けます。

この日も False start が1件ありました。

2日目のレースは12時過ぎに終了です。各部署で終わり次第各自がそれぞれ自由に昼食を取りにレストランへ向かいます。

そして、この日は14時より FISA Umpires Seminar (講師は Jerome Mouly 氏) がありました。FISA の役員体制や FISA 加盟状況、FISA 審判員の動向、今後の FISA イベントの予定等が紹介されました。

ここ最近ではネパールとフィジーが加盟し、現在150カ国の加盟となった。審判員は470名ほどでここ数年増えているとのこと、私が受かった2011年は増加する前で450名程度でした。最年少者は ARG の Lucia さんで24歳（この大会に参加しています。）と紹介されていました。すごいあと何十年国際大会に行けるんだ！

ここでも東京オリンピック会場が話題となり、「HIDEKI、何か説明できるか？」と振られましたが、来年から着工するとか、風が心配だとかくらいしか分かりません。いいコースになるよう祈ります。

そして、この日の夜はボーリング大会です。下の左写真は、コースのすぐ隣にある屋外ボーリング場です。6レーンあります。ここでやるのかな？と思ったのですが、バスで行くと言うので違うな、どんなところかな？と期待が膨らみます。その会場は写真の右です。ほんとにボーリングをするだけの機能に特化した会場。



4 レーンあるんですが1つ故障で、3 レーンを使い、NTO、国際審判、OC 各メンバーが 8 名くらいずつグループを作りで楽しみました。途中でもう 1 レーン壊れ、修理しているところを見ることが出来ました。ボーリングの設備は意外にもコンパクトでした。そんなトラブルもありましたが、飲みながら談笑して楽しく過ごしました。私が持って行った日本のお菓子も食べてもらいました。

さて、いよいよ最終日 4 日（日）の競技です。

この日の部署は AM が Umpire 2 です。3 レース担当しました。特に業務は問題なかったのですが。最初の担当レースは M4- ファイナル B 2 艇レースです、南アフリカと中国です。ストロークレートは終始中国の方が高いですが、常に南アフリカリードの展開です。しかし 2000 直前で中国がスパートしほぼ同着です。私は白旗をあげますが、なかなか Finish から白ランプが付きません。どうやら判定に時間がかかっているようです、その後やっとライトが付きました。後に結果を確認すると私が間違えた時と一緒に 0.01 秒差で中国が勝ちました。その後夜の飲み会で聞いたんですが、Finish judge も NTO も間違えたそうです、白ライトをつけ忘れていたそうです。そんなことを飲みながら笑って話していました。

そして、この日は昼食が早く 11 時過ぎに食べて 12:30 からのレースに備えます。

この午後の配置がややこしくスターター、アシスタントスターター、Judge at start 以外は皆 2 か所から 3 箇所と移動します。私は最初の 6 レースが艇計量、その後 Umpire 3 で 1 レースを担当するというもの。中には 2 レース finish、その後 Umpire その後 Out ポンツーン担当という方もいます。後に以下のような一人一人の行動を細かく書いた紙が配られました、ちなみに私には直接渡されず他の審判から見せてもらったプリントを写メしておきました。



会場の地図です。人工湖の周り
はショッピングセンターや遊園
地、プールなど一大レジャー施
設となっています。

湖の右上にピンク色に塗られ
ているところが宿舎となった
Camping Malta です。ミニ鉄
道も走っています。



珍しい種目 4×男女混合です。
男女比 2 名ずつでポジションは不
問です。バウペアーが女子というク
ルーが多かったですが、ストローク
とバウが女子と言うクルーもあり
ました。

小さいですが、各クルーの個人名
が書かれておりその横には 94 とか
88 等の数字が書かれています。
これは生年を表します。大学生であ
ることが出場資格で、ジュニアや
U23 ではないのであまり意味はな
いと思われますが。

ちなみに今回 Out ポンツーンで
の監視には PHOTO BOOK などは
使用せず、選手の ID カード (写真
入り) とこのスタートリストで照合
しました。



最終日、全表彰式が終了後の Umpire
boat レスキュー艇によるパレードで
す。

issued at 15:00 September 02, 2016

THREE HOURLY WEATHER FORECAST

02/03 September 2016

Time	15:00	18:00	21:00	00:00	06:00
Status of sky					
Temp (°C/°F)	24/75	20/68	19/66	15/59	14/57
Relative humidity %	75	79	79	79	80
Wind direction	NW	NW	W	SW	SW-S
Wind speed (m/s)	5/10	3	3	3	3
3 hourly rainfall (mm)	0	0	0	0	0

Forecast for next days at: 06:00

03 September 2016

Time	09:00	12:00	15:00	18:00	21:00
Status of sky					
Temp (°C/°F)	19/66	23/73	24/79	23/73	21/70
Relative humidity %	75	75	80	90	75
Wind direction	S	SW	SW	W	W
Wind speed (m/s)	3	4	5/10	5/10	3
3 hourly rainfall (mm)	0	0	0	2	0

03/04 September 2016

Time	00:00	03:00	06:00	09:00	12:00
Status of sky					
Temp (°C/°F)	16/61	17/63	15/59	19/66	23/73
Relative humidity %	75	80	85	75	60
Wind direction	W-SW	S	S	S	SW
Wind speed (m/s)	3	2	3	4	5
3 hourly rainfall (mm)	0	0	0	0	0

会期中の天気予報が掲示されていました。最終日夕方に予報通り小雨が降りました。

朝晩は涼しく日中はやや暑いという過ごしやすい天候でした。

日照時間は6月と比べ大分短くはなっていますが、7時45分くらいまでは薄明るいです。朝は6時ころから明るくなります。



行きの飛行機から POZNAN 着陸直前に会場コースが見えました。



判定塔です。ガラス張りの階段室は実際の判定業務には使いませんでした。ここならフィニッシュラインにかなり近いのですが。

業務は5階相当の部屋からです。



スタートタワーの屋根の上にオレンジの回転灯があり、2 minutes 後はこれが点灯します。また、ワールドカップⅢの時に旗で発艇することになり、旗が青い屋根に当たると指摘されていました。その通りなんです、この青の日差し除け（屋根）は引っ込めることが出来る構造でした



最終日は全艇に主催者のステッカーが張られました、最後の8レースはテレビ中継もありました。



観客席向かいの大型スクリーンにフィニッシュ直後に国旗と順位が出ます。競泳の放送などでよく見るやつです。

おわりに

この度、初めて FISA 審判委員会が選任する大会に参加することが出来ました。国際審判員として ARF の大会には何度か参加しましたが、やはり World Wide な大会であるということを肌で感じました。選出審判員と選手の参加国も全大陸から来ており、国際色の豊かな大会で業務運営などもとても組織化されておりました。審判団も非常に社交的な雰囲気をもっており、業務以外のところでも懇親の機会がたくさんありました。また、皆さん日本に関する興味関心が高いことに改めて気付かされました。

この大会は2年に1度のユニバーシアードが開催されない年に競技によって（ボートはやる）開催されている大会です。注目は台湾が参加していたことでしょうか、来年のユニバーシアード開催国だからだと思います。この大学生（主に U23）の競技レベルを上げることは将来のオリンピックでの活躍に資する事と思います。昨年のユニバーシアードに続き来年のユニバでも日本の活躍に期待したいと思います。

最後になりましたが、今大会へ派遣していただきましたことに、（公社）日本ボート協会 上野審判委員長、千田国際委員長、相浦事務局長、事務局審判担当 竹内様、事務局国際担当 藤田様に心より御礼申し上げます。



閉会式（Closing Ceremony）で各国旗を持って入場する代表者。

以上